

第3章 合併の施行

第3章 合併の施行

1 合併施行に向けた準備

(1) 事務移行作業

新発田市・紫雲寺町・加治川村合併協定書に基づき、平成17年5月1日の合併施行に向けて、三市町村において準備作業が開始された。

合併協議会で協議・承認された760項目の行財政調整方針をはじめ、三市町村で行っているすべての事務事業がスムーズに移行できるよう種々の調整を行った。

作業においては、三市町村の職員相互の協力により、電算システムの統合や書類の整理など、細部にわたる調整が行われた。

特に、条例改正や合併にかかる予算の編成など、議会手続きが必要な事務については、留意しながら進められた。

新市の住所表示の字を変更する条例が制定され、平成17年5月1日から、新市の住所表示のうち、全ての「大字」の文字が削除され、また、一部の地区で字の区域変更が行われた。

紫雲寺町及び加治川村の平成17年度の当初予算編成作業は、総務大臣の告示後となったことから、紫雲寺町及び加治川村では、通年予算を仮査定後、平成17年4月中に執行を必要とする経費のみ暫定予算として編成した。

なお、紫雲寺町及び加治川村で仮編成した通年予算から、暫定予算を控除したものは、合併後の新市の補正予算の基礎資料とし、これを基に制度調整に伴う増減分を加減し、合併直前の新発田市議会の4月の臨時会で補正予算案を提案し、可決された。

また、紫雲寺地区及び加治川地区に急激な変化を来たさぬよう、新たに支所を設置することとしたため、支所で行う業務の範囲や組織については、三市町村間で十分検討が行われた。

(2) 住民への周知

三市町村では、合併に関する住民への情報提供を十分に行うため、それぞれで広報活動を行った。

広報誌、ホームページ

三市町村では、それぞれ定期発行している広報誌とホームページに、合併後の制度の変更点や、各種手続きなどを随時掲載し、周知を行った。

支所ガイドブックの発行

紫雲寺町及び加治川村では、合併前の平成17年3月に、合併後の行政サービスの変更点や、支所で扱う業務などをまとめたガイドブックを発行し、町村内全世帯へ配布した。

新発田市暮らしのガイドの改訂

新発田市の「暮らしのガイド」を改訂し、市内全世帯へ配布した。

(3) 公共的団体統合への働きかけ

三市町村にある公共的団体については、行政と深く関わり合い、地域社会の発展、住民福祉の向上や行政の円滑な運営などに寄与する活動を続けてきた。

三市町村が合併することによって、三市町村にある同種の団体についても、統合により行政との連携を維持・強化していくことが望ましいことから、三市町村では、合併協議会で承認された行財政調整方針に基づき、市長・町長・村長それぞれが団体長宛に文書を送付し、合併を契機に統合へ向けた検討を行っていただくよう要請した。

(4) 新潟県から新発田市への事務引継ぎ

三市町村の合併に伴う、新潟県知事から新発田市長への事務引継ぎが行われ、新潟県から新発田市へ25項目の事務が移管されることとなった。

	分 類	項目数
1	法令・政令・省令に基づく移管事務	10
2	国の要綱、通知等に基づく移管事務	6
3	県の条例に基づく移管事務	9
	計	25

2 紫雲寺町の閉町及び加治川村の閉村

紫雲寺町及び加治川村では、合併により町及び村の歴史を閉じるにあたり、閉町村式典などを実施した。それぞれの町村制が施行されてから50周年にあたる年であった。

(1) 閉町村式典

閉町村式典は、加治川村においては、平成17年3月22日加治川村民体育館で、紫雲寺町においては、平成17年3月30日紫雲寺町中央公民館で、それぞれ開催された。

式典には新潟県知事、地元選出衆議院議員、新潟県議会議長、新発田市長をはじめ近隣の市町村長、議会議員などを来賓に迎え、町村関係者らそれぞれ約300人が出席して行われた。



紫雲寺町閉町式典 次第

オープニング

- | | | | |
|----|---------------------|-----------|--------|
| 1 | 開式のことば | 紫雲寺町助役 | 花野忠二 |
| 2 | 式辞 | 紫雲寺町長 | 鬼嶋正之 |
| 3 | 議会議長あいさつ | 紫雲寺町議会議長 | 井浦純一 |
| 4 | 町50年のあゆみ・合併経過報告 | | |
| | 紫雲寺町合併等記念プロジェクト担当課長 | 板垣克彦 | |
| 5 | 来賓祝辞 | | |
| | 新潟県知事 | | |
| | 代理 新潟県副知事 | 川上忠義様 | |
| | 衆議院議員 | 稲葉大和様 | |
| | 新潟県議会議長 | | |
| | 代理 新潟県議会議員 | 石井修様 | |
| | 新発田市市長 | 片山吉忠様 | |
| | 須坂市長 | 三木正夫様 | |
| 6 | 祝電披露 | | |
| 7 | 来賓紹介 | | |
| 8 | 功労者表彰 | | |
| 9 | 受賞者代表謝辞 | | |
| 10 | 住民代表意見発表 | 紫雲寺町稲荷岡在住 | 園部賢一様 |
| 11 | 私の想いをこの歌に | | 稲葉悠紀子様 |
| 12 | 町旗降納 | | |
| 13 | 閉式のことば | 紫雲寺町収入役 | 広沢光作 |



加治川村閉村式典 次第

- | | | | |
|----|--------------------|--------------|-----------|
| 1 | 開 式 | 加治川村総務課長 | 九 原 克 務 |
| 2 | 式 辞 | 加治川村長 | 佐 藤 康 夫 |
| 3 | 議会議長あいさつ | 加治川村議会議長 | 宮 島 信 人 |
| 4 | 加治川村50年の歩み及び合併経過報告 | | |
| | | 加治川村教育長 | 中 倉 道 弥 |
| 5 | 来賓あいさつ | 新潟県知事 | |
| | | 代理 新潟県副知事 | 高 橋 正 樹 様 |
| | | 衆議院議員 | 稲 葉 大 和 様 |
| | | 新潟県議会議長 | |
| | | 代理 新潟県議会議員 | 石 井 修 様 |
| | | 新発田市長 | 片 山 吉 忠 様 |
| | | 北蒲原郡町村会長 | 鬼 嶋 正 之 様 |
| | | 北蒲原郡町村議会議長会長 | 小 野 金 吾 様 |
| 6 | 来賓紹介 | | |
| 7 | 祝電披露 | | |
| 8 | 表彰状及び感謝状の贈呈 | | |
| 9 | 受賞者代表の言葉 | | |
| 10 | 記念歌演奏及び斉唱 | | |
| 11 | 村旗降納 | | |
| 12 | 閉式の言葉 | 加治川村総務課長 | 九 原 克 務 |

町の花「希望」の花、レンギョウの蕾がほころびはじめた本日、町制施行50周年並びに閉町記念式典を挙げるにあたり、新潟県知事代理川上忠義副知事様、稲葉大和衆議院議員様、新潟県議会議長代理石井修県議会議員様、地元県議会議員の皆様、紫雲寺町を迎えてくださる片山吉忠新発田市長様、姉妹都市として友好を深めさせていただいております三木正夫長野県須坂市長様、そして近隣市町村長様並びに議長様方、国・県機関を代表する皆様をはじめ町内機関・団体を代表する皆様、町ほう賞規則に基づき功労者として表彰を受けられる皆様からご臨席を賜り、ここに意義深く式典を挙げるできますことは、紫雲寺町長として喜びに耐えないところであります。

紫雲寺町には、270年前に紫雲寺潟の干拓に命をかけた、また日本海の荒波と闘ってきた旺盛な開拓者魂が、今なお脈々と受け継がれております。ちょうど半世紀経過した本日、この伝統と誇りある紫雲寺町を閉じるにあたり、謹んでごあいさつを申し上げます。

顧みますと昭和30年3月31日、紫雲寺村と松塚村の一部でありました藤塚浜が合併し、紫雲寺町は誕生いたしました。以来50年、幾多の苦難を乗り越え、夢と希望に満ちた町を目指して、町民力を合わせて努力してまいりました。

この半世紀にわたる町の歴史を紐解けば、まだまだ戦後の混乱期、地方経済も非常に厳しい中での船出でありました。この辛い時代の基礎づくりにご苦労されたのが初代の吉田藤衛町長であります。

昭和39年の新潟地震、41年の7・17水害、42年の8・28水害と、度重なる自然災害に遭い、失意のどん底にあった町民を励まし、共に支えあい、早期復興を果たされたのが、二代目石井信男町長であります。

私は、昭和56年8月、志半ばにしてご逝去された石井町長の、その偉大な功績を引き継ぎ、「人柄・土地柄の良さを誇る町づくり」「町民が安心して安全に暮らせる町づくり」を基本理念に、町政を担わせていただいております。幸いにも天運をいただき、大きな災害もなく過ごせたことを本当に有難く感謝しているところであります。

ライフラインの整備はもとより、水田の汎用化を図るための湛水防除事業、ほ場整備事業、健康の維持増進・地域の活性化と良好な環境整備を目的とした海洋性レクリエーション基地建設構想に基づく昭和天皇在位60周年を記念する県立紫雲寺記念公園の誘致、内陸地の農地、住宅を塩害・風害から守る緑地保全事業の導入、雇用の場の拡大と地域経済の活性化対策としての企業誘致、「健康こそ町民の財産である」との考えから、安心して暮らせる町づくりを目指す、保健・医療・福祉の一体化と、教育との連携による地域包括医療体制の整備、地産地消運動の

展開、地域から地球環境を考えるクリーンエネルギーの活用策としての、風力発電、天然ガス発電、太陽光発電の導入など、時代の要請に応えつつ、国・県の機関をはじめ、周辺市町村から多くのご支援・ご指導を頂戴しながら、地域の特性を活かした「まちづくり」を展開し、今日を迎えることができました。

お力添えくださった国・県の機関をはじめ全ての皆様に町民を代表して心から感謝申し上げます。

しかしながら、国内外の状況は大きく変化しつつあり、少子・高齢化の更なる進展とあいまって、先の読めない今、増え続ける国民の負担、財源確保に困窮することが予測される今後を考えると、究極の行財政改革手法としての「合併」は、避けて通れない「歴史の必然」「時代の要請」と判断し、紫雲寺町は、50年の歴史に幕を下ろし、更なる飛躍を求めて加治川村と共に、新発田市に仲間入りさせていただきます。

合併はそれ自体が、目的でもなければゴールでもありません。新しい地域をみんなで創造するための手段であると同時に、まちづくりの最大のチャンスであり、住民の幸せを追求するための新たなスタートでもあります。

紫雲寺町民にとって、生まれ育ったふるさと「紫雲寺町」の名が消えることは寂しいことではありますが、刻まれた歴史、伝えられた文化、培ってきた開拓者精神を礎とし、10万6千人を擁する県北地方の核としての新発田の「まちづくり」に参加できる喜びをかみしめつつ、海を持つ紫雲寺地域の特性を生かしながら、積極的に参画してまいりたいと存じます。

お迎えくださる新発田市の皆様、先導くださった旧豊浦町の皆様、共に仲間入りする加治川村の皆様、どうぞよろしく願いいたします。国・県の皆様には、今後とも引き続きご指導ご支援を賜りますよう何卒よろしく願い申し上げます。

楽しいときも、悲しいときも、苦しいときも、私たちが優しく抱きしめてくれたまち"紫雲寺"。先人が築いてくれた歴史を正しく継承し、今、ふるさと紫雲寺は新発田市の懐に抱かれ、新しく発展の役割を担って新たなスタートをきります。

飯豊連峰より朝日を浴びて黄金色に輝く稲穂。松風薫る赤松林。野鳥がさえずる阿房堀や清瀧。キラキラと水面輝く加治川。茜色に染まる白砂青松の日本海。大好きです 紫雲寺町。

母なる海、父なる大地の恵みに感謝して、新たなふるさと新発田市の発展に思いを馳せ、平成17年春、紫雲寺町は「新たな飛躍を求めて」旅立ちます。

ありがとう紫雲寺町。開拓者魂は永遠であります。

私たち紫雲寺町民は、「愛せるまち 誇れるまち ふるさと新発田の創造」に向け、共に歩んでまいります。

悠久の営みの中で育まれてきた山桜、櫛形の手裾から沃野に広がる美田、そして母なる川、加治川の清らかな水面を染める桜。私たちが遥かな夢を築いた加治川村が、5月1日、新発田市並びに紫雲寺町と合併いたします。

本日、輝かしい加治川村50年の歩みを祝うと共に、誇り高いこの加治川村を閉じるにあたり、泉田新潟県知事様、稲葉衆議院議員様、片山新発田市長様、各町村長様方をはじめ、多くのご来賓の皆様からご臨席を賜り、ここに、盛大、かつ、厳粛に加治川村生誕50周年記念並びに閉村式典を挙行できますことは、限りない喜びと感謝の気持ちで一杯であります。村民を代表いたしまして、ご臨席の皆様にご心から厚く御礼申し上げます。

さて、加治川村50年の歴史を振り返りますと、昭和の町村合併促進法の施行に伴い、昭和30年7月、加治村と金塚村の合併によって加治川村は誕生いたしました。

純農村として誕生した加治川村は、昭和40年代初頭にかけて幾度も自然災害に見舞われ、基幹産業である農業をはじめ村内各地に甚大な被害をもたらされました。しかし、村民一丸となった努力によってこの苦境を乗り越え、現在のように実り多い豊かな村を築き上げることができました。また、産業振興にとどまらず、うるおいあるこの自然環境を活かし、観光資源開発にも努めてまいりました。加治川村の名は、春先には広く県内外から足を運んでいただける桜の名所として多くの方に愛されております。

一方、豊かな心を育てる教育施策は、明るく健やかな子供たちに表れております。大韓民国全谷邑との相互訪問事業では、言葉の壁を越えて、互いに心通わせる子供たちの姿に、次代を担う人材の胎動を予感しております。また、高齢者が安心して暮らせる村づくりとして、地域福祉の充実に努めてまいりました。満開の桜、そして、黄金色に染まる稲穂、この美しいふるさとで営まれるあらゆる世代にとって安心・安全な暮らしが、私たち加治川村民の誇りであります。

しかし、社会情勢の変化が加速度を増す今日にあって、これからの地域の更なる発展のためには、地方分権が進む中で、地域に即した自治を進め、財政の健全化を図り、広域的な視野をもって住民サービスを行っていくことが肝要であり、そのためには、加治川村にとって市町村合併が最も重要な課題となりました。

こうして、平成13年7月、第1回市町村合併研究会から新発田市及び紫雲寺町との合併にむけた協議が始まりました。平成14年12月には推進協議会を、翌15年には法律に基づく合併協議会を設置し、昨年10月、総務大臣による廃置分合の告示を経て今日に至っております。合併に向けて進めてまいりました準備も整い、およそあと一月と迫った5月1日の合併施行を待つばかりでございます。

加治川村はこの50年の間に目覚しい躍進を遂げ、そして、これからの発展に向け進むべき道筋が拓かれました。これもひとえに国、県関係機関並びに近隣市町村の皆様方のご支援の賜物でございます。ここに心から厚く御礼申し上げます。また、歴代村長をはじめ、議会議員、諸先輩方の英知を結集したたゆまぬ努力と村民の皆様からの多大なるご理解とご協力に対しまして、深く感謝申し上げる次第でございます。

これから私たちは、県北の中核都市・新発田市の一員として、新市建設に参画いたします。新市が、様々な文化と伝統が共生する魅力ある都市となりますように、地域固有の文化と伝統を尊重し、しっかりと次世代に守り継いでまいりたいと思います。それだけにとどまらず、豊かな自然環境の農業食糧生産基地として、また、ゆとりある住みよい居住地区として、この地域の役割を果たし、新市の発展に尽力してまいりたいと、村民一同決意を新たにしております。

結びに、これから新たな一步を踏み出す加治川村の地域の人たちが、将来にわたって持てる力を生き活きと発揮できますよう、新発田市・紫雲寺町をはじめ関係各位からの一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、式辞といたします。

(2) 閉庁式

平成17年4月27日（木）の業務終了後、加治川村庁舎を閉じる閉庁式が、そして、平成17年4月28日（金）の業務終了後、紫雲寺町庁舎を閉じる閉庁式がそれぞれ開催された。



紫雲寺町閉庁式次第

- 1 開 式
- 2 閉庁記念石碑除幕
- 3 町長閉庁あいさつ
- 4 議長閉庁あいさつ
- 5 町民憲章朗読
- 6 町旗降納
- 7 閉 式

紫雲寺町民憲章

(昭和60年4月1日制定)

1. 郷土の自然を愛し、明るく住みよい町をつくります。
1. 伝統を重んじ、文化のかおり高い町をつくります。
1. 助け合い、おもいやりの心に満ちた町をつくります。
1. スポーツに親しみ、心身を鍛え、健康な町をつくります。
1. 先人の偉業をたたえ、仕事に励み、豊かな町をつくります。



加治川村閉庁記念碑
除幕式次第

- 1 開 式
- 2 村長あいさつ
- 3 記念碑除幕
- 4 閉 式

加治川村閉庁式次第

- 1 開 式
- 2 村長閉庁あいさつ
- 3 議長閉庁あいさつ
- 4 庁舎名板降納
- 5 村旗降納
「永久に～光につつまれて～」
- 6 閉 式

3 合併記念事業「城下町しばた文化の祭典」

合併を目前に控えた平成17年4月23・24日の2日間、新発田市・紫雲寺町・加治川村合併記念事業として「城下町しばた文化の祭典」が開催された。このイベントは、合併後の新市の住民の速やかな融和を図るとともに、三市町村の歴史・文化の相互理解を図ることを目指して行われ、三市町村の大勢の住民が参加し、合併に向けた機運を盛り上げた。



4 支所の開所

平成17年5月1日、新発田市、紫雲寺町及び加治川村の合併の日を迎えた。

新たに支所となった旧町村役場ではそれぞれ支所開所式が行われた。

支所の開所に先立ち、紫雲寺町長及び加治川村長から新発田市長へそれぞれ事務引継ぎが行われた。その後、鬼嶋新発田市特別参与及び佐藤新発田市特別参与への委嘱状交付と、支所職員に対する辞令交付が行われた。

引き続き、支所玄関前において片山新発田市長、小川新発田市議会議長、特別参与によるあいさつとテープカットが行われ、支所が開所した。

支所開所式次第

- 1 開式
- 2 市長あいさつ
- 3 テープカット
- 4 市議会議長祝辞
- 5 特別参与あいさつ
- 6 閉式



紫雲寺町長からの事務引継ぎ



加治川村長からの事務引継ぎ



5 合併記念式典

新発田市、紫雲寺町及び加治川村の合併を記念して、平成17年5月2日、「新発田市・紫雲寺町・加治川村合併記念式典」が新発田市民文化会館で開催された。

式典には、三市町村の住民代表をはじめ関係者約700名が出席し、新しい新発田市の門出を祝った。

式典は、地元荒川地区の荒川神楽保存会による荒川獅子舞で幕を開け、片山新発田市長が式辞を述べた。次に、鬼嶋旧紫雲寺町長、佐藤旧加治川村長、小川新発田市議会議長があいさつした後、来賓の総務大臣（代理 総務省望月市町村課長）、泉田新潟県知事（代理 高橋副知事）、稲葉衆議院議員、種村新潟県議会議長（代理 石井新潟県議会議員）から祝辞が述べられた。

また、市町村合併に積極的に取り組んだ者に対しその功労をたたえる「市町村合併功労者総務大臣表彰」が、片山新発田市長、鬼嶋紫雲寺町長、佐藤加治川村長、二階堂前新発田市議会議長、井浦元紫雲寺町議会議長、宮島元加治川村議会議長の6名に贈られ、この式典の中で表彰状が手渡された。

この後、石井県議会議員による万歳三唱と東豊小学校金管バンドによる演奏ののち式を閉じた。

合併記念式典 次第	
オープニング	荒川神楽保存会
1 開 式	
2 式 辞	新発田市長 片 山 吉 忠
3 あいさつ	紫雲寺町長 鬼 嶋 正 之
	加治川村長 佐 藤 康 夫
	新発田市議会議長 小 川 弘
4 祝 辞	総務大臣 麻 生 太 郎 様
	新潟県知事 泉 田 裕 彦 様
	衆議院議員 稲 葉 大 和 様
	新潟県議会議長 種 村 芳 正 様
5 来賓紹介	
6 祝電披露	
7 市町村合併功労者総務大臣表彰	
8 万歳三唱	新潟県議会議員 石 井 修 様
9 エンディング	東豊小学校金管バンド
10 閉 式	



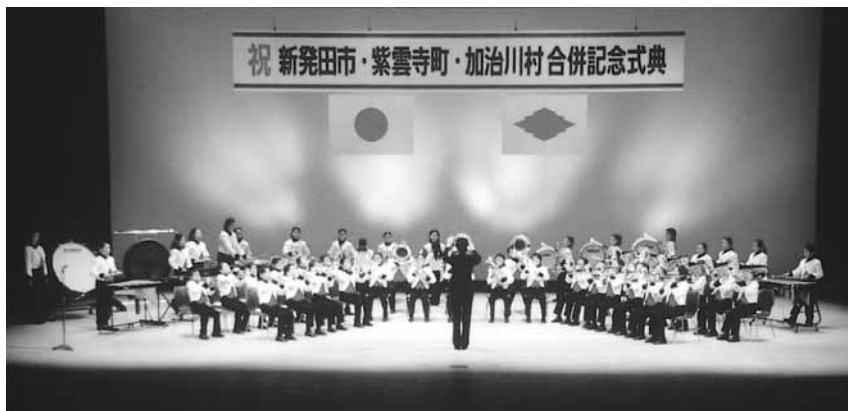
オープニング (荒川神楽保存会)



新発田市議会議長あいさつ



万歳三唱



エンディング (東豊小学校金管バンド)

白砂青松の海岸と先人の開拓者精神を受け継ぐ紫雲寺町、豊かな大地と母なる川の恵みを育む加治川村、そして、伝統と文化の薫るふるさと新発田市が、昨日、5月1日に合併をし、ともに光輝く新たなページを記す本日、総務大臣代理望月市町村課長様、新潟県知事代理高橋副知事様をはじめ、かくも多くのご来賓の皆様方からご臨席を賜り、記念式典を挙行できますことに、心から感謝を申し上げます。

また、三市町村の振興に向け、議員協議会を設立され、この度の合併協議の礎を築かれました議会議員の皆様、並びに、合併協議会において、熱心にご議論をいただきました委員の皆様、そして、温かいご理解とご支援を賜りました住民の皆様に、心から御礼を申し上げます。

地方分権が進展する中、国も地方も、そして住民も自らが変わらなければならないという変革の時代にあって、三市町村は地域の明日を見つめ、発展を願い、住民の皆様と共にまちづくりを進めてまいりました。

先人から受け継いだ豊かな風土の中で、それぞれのまちづくりを進めてまいりましたこれまでのステージから、合併をばねに、未来へ架ける大いなる展望を胸に、10万6千人の市民の皆様と共に、新生・新発田市が新たなステージに立てましたことは、誠に喜びに堪えないところであります。

俳聖松尾芭蕉の蕉風俳諧の基本理念に「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず」、即ち「不易流行」がございます。

「不易」は、変わらざる本質であります。しかし、時代や環境に応じて変えるべきところは変えていく「流行」も必要なのであります。

新生・新発田市の創造に求められているものは、理想と信念、そして自らが立ち向かう勇気であります。新発田の本質である豊かな大地と、歴史の中で育まれてきた精神風土を見失わず、時代の変化に的確に対応する新風を巻き起こさなければならないと考えております。

将来に夢をつなぐ新たな船出にあたり、「新生・新発田市」の大いなる航路を、市民の皆様と共に考え、共に汗して歩んでまいりたいと考えております。

本日ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方に、重ねて感謝を申し上げますとともに、新生・新発田市の発展のため、今後とも一層のご支援を賜りますことを、お願い申し上げます。式辞とさせていただきます。

おかげさまで、歴史的な大事業であります合併事業を成就させていただきまして、本日ここにごあいさつの機会を頂戴できましたことを、この上ない光栄と存じ心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

本日、総務大臣代理としておこしいただいております望月課長さん、県知事代理としておこしいただきました高橋副知事さんをはじめ、稲葉先生、地元県議の皆様方のお守りをいただく中で、今日まで時代対応としての合併議論を建設的に重ねて、ここまで来れたことはひとえに片山市長の深い思いと三市町村の議会の皆様方の深い理解に基づく建設的な議論があり、そしてそれをしっかり支えて議論を組み立てていただいた合併協議会の皆様方のご努力、多くの皆様方の思いが重なって、今日あるわけでありまして、市町村民の深い深いご理解に対して、重ね重ね感謝を申し上げる次第であります。

時代は必ず転換期があります。その時にどう決断をするか、その時々にかされた人々の使命であり、宿命であります。これからは、我々の先人が我々に想いをかけながら素晴らしいふるさとを残してくださったように、未来の人々に何を残して、何をしなければならぬのかを考えながら、一日も早く一体感が生まれ、まちづくりの気運が醸成されるように、与えられた使命を一生懸命果たしてまいりたいと存じます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

「さくらとコシヒカリの里」づくりに力を注ぎ、村民と一体となった地域づくりを進めてまいりました加治川村が、昨日、5月1日という記念すべき良き日に、紫雲寺町と共に新発田市に編入合併いたしました。

この記念すべき式典で、旧加治川村長として、一言ごあいさつを申し上げます。

加治川村は、これまで豊かな自然と、先人が築いてくれました多様な文化を育んできた歴史がございます。また、「村づくりは人づくり」を施策の中心に、住みよい村を築いてまいりました。新市におきましても、さまざまな文化と伝統が共生する魅力あるまちとなりますように、地域固有の文化と伝統を尊重し、しっかりと次世代に守り継いでまいりたいと存じます。

また、誇りある加治川村民が、合併により新生「新発田市」の一員として共に新市の発展に努力してまいりたいと存じます。これからは、我々村民も新しい10万6千の一員として、地域の発展に寄与してまいり所存でございます。

結びに、新発田市全域が、安心して、安全な生活が今まで以上に充実されますよう、国・県はもとより、各位からの一段と温かいご支援をお願い申し上げ、あいさつといたします。

どうもありがとうございました。今後もよろしく願います。

「山青くして、花然えんと欲す」この良き日に、すがすがしい海の風と清らかな雪解け水とともに、城下町に、新しいまちづくりの息吹が吹き込まれました。

市民の皆様とともに、新しい門出をお祝いできますことは、誠に喜びに堪えないところであります。

新発田市は、ここに紫雲寺町の開拓者精神と、加治川村の苦境を乗り越える精神力をいただき、もう一回り大きな新発田市をめざすことになりました。

改めて、紫雲寺町民、加治川村民の皆様そして新発田市民の皆様の、温かいご理解と高い志に、心より敬意を表し、感謝申し上げる次第であります。

これまで、新発田広域圏の隣接する自治体として、お互いに協調して、それぞれ発展してまいりました三市町村は、今では、完全に生活圏が一体化しており、分権時代の受皿としての行政能力と財政基盤の確立を図るためにも、合併は避けて通れない課題でありました。

平成14年に、合併を含めて、この地域のあり方を研究しようと新発田市と紫雲寺町、加治川村の三議会で議員協議会を立ち上げ、これまで築きあげた歴史、伝統、文化を、次の世代にどのように引き継ぐのか、その方向性を論議してまいりました。

結果、ともに手を取りあい、新しいまちづくりに進むことが、地域の発展と住民福祉の向上につながるものとして、地域の思いが一つにまとまり、信頼関係のもとに築かれた大きな成果の後押しができましたことは、議員協議会といたしましても誠に大きな喜びであります。

同時に、紫雲寺町民、加治川村民の皆様は、それぞれの地域の将来にわたる発展を心から願って、長い歴史と伝統に輝く町制並びに村制に幕を閉じる決断をされました。そのふるさとを愛する思いを受けとめたとき、改めて新発田市議会としての責務を強く感じているところであります。

平成の大合併で、日本地図が様変わりいたします。合併を契機とした新しいまちづくりが、全国的に始まっております。新発田市を輝かせるのは、個々の地域の魅力であり、市民一人ひとりの英知の結集であります。

紫雲寺地域、加治川地域、豊浦地域そして新発田地域と互いに刺激しあって、その魅力に磨きをかけることが、新発田市全体のイメージアップにつながり、城下町しばたを全国に向けて発信する武器となります。

そして合併は、地域がさらに元気になるための絶好の機会です。地域に根ざしたフットワークの良さと、地域と人とのネットワーク、そして心をつなげたチームワークづくりを進めることが、住みなれた地域で生き活きと暮せるまちづくり

の活力につながるものと確信しております。

「雄飛躍動」新発田市議会は、市民の皆様とともに新生・新発田市のまちづくりに邁進いたします。

誇りを持って後世の人々に渡せるまちづくり、その礎となることが、今日この場に立ち会えた私たちの役割であります。

さらなる新発田市の発展と、市民の皆様の一層のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ、ごあいさついたします。本日は誠にありがとうございました。

本日、ここに、新発田市・紫雲寺町・加治川村合併記念式典が挙行されるにあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

このたび、新発田市、紫雲寺町、加治川村の合併により新・新発田市が誕生いたしましたことに対し、心よりお慶び申し上げます。

また、今回の合併の実現は、三市町村の住民の皆様をはじめ、議会やご当局などの多くの関係者のご尽力の賜であり、深く敬意を表する次第であります。

新「新発田市」の地域は、新潟県北部に位置し、山岳地帯には自然景観に恵まれた磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園があり、また、加治川を水源とする豊かな水田が開けた新潟県内有数の良質米の産地として知られております。三市町村は、地理的にも、歴史的にも、経済・文化・生活の面でも強いつながりを有し、日常生活圏の一体化が進んでいると伺っております。

また、行政面においても、消防や環境衛生などの業務に共同で取り組んでこられました。

このように強い結びつきを有していた三市町村が合併により、新・新発田市として、まちづくりの第一歩を踏み出されたことは誠に喜ばしい限りであります。

現在、市町村を取り巻く情勢は大変厳しいものとなっております。そのような中でこの三市町村は、少子高齢化の進行や地方分権の進展という時代の流れを真摯に受け止められ、新しい自治体として共に歩むという道を選択されました。合併により誕生した新・新発田市は、県北地方初の10万人都市であり、同地方における産業・経済・文化の中心的都市として、更に飛躍発展されることを期待するものであります。

これからの日本は地域主権の時代になってまいります。そして、それは地域同士の競争の時代であります。市町村は、住民に最も身近な総合的な行政主体として、これまで以上に自立性の高い、経営能力のある行政主体となることが求められております。

新・新発田市が合併を契機として、市民の皆様をはじめ、市議会、市当局が一丸となって一体的なまちづくりの実現に向け邁進されていかれることを切に願いたします。

総務省といたしましても、新市が地域経営の視点をもって、住民の皆さんと協働した新しいまちづくりに取り組んでいただけるよう、しっかり支援してまいります。

結びとなりますが、新・新発田市の一層の御発展と、市民の皆様の御繁栄、御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

新発田市・紫雲寺町・加治川村合併記念式典にあたり、一言お祝いを申し上げます。

昨日、5月1日より新発田市は紫雲寺町及び加治川村の皆様とともに、10万6千人を擁する都市として新たな第一歩を踏み出されました。

これまで合併協議にご尽力された片山市長をはじめとする関係町村長、議会議員、行政関係者並びに住民の皆様の熱意とご努力に対し、深く敬意を表します。

また、合併協議に尽力されたご功績により、本日総務大臣の表彰をお受けになります皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、今後とも地域の発展のためにご活躍くださいますよう、お願い申し上げます。

このたび新たに新発田市に加わった二町村は、これまでも新発田市との歴史的なつながりが深い上に、通勤・通学、通院、買い物など、住民の日常社会生活圏も一体化いたしておりましたが、合併によりさらに長期的な視点に立って総合的なまちづくりを進めることが可能となりました。

また、新発田市はこれまでも歴史や文化に培われた城下町として、また県北地域の中核都市として、地域住民の生活や産業振興を支えておいてございましたが、この度の合併に伴い多様な人材を加え、市民に潤いを与える海岸部や、広大な優良農地、あるいは各地の伝統文化など、様々な地域資源を新たに加えることとなりました。

今後は、こうした地域資源を活用し、地域の一体感を醸成しながら、新たな都市の魅力や地域の価値を創造するとともに、新・新発田市民の英知と創意工夫を結集する中で、産業・福祉・教育・コミュニティなどあらゆる分野において、市民のいきいきとした活動と交流が実現できますよう、積極的な取り組みを期待いたしております。

県といたしましても、新生新発田市がさらに活力に満ち、魅力あふれる県北の拠点都市として将来に向けて大きく飛躍されるよう、最大限の協力を行ってまいりたいと考えております。

終わりに、新生新発田市の今後ますますのご発展とご列席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、ごあいさついたします。

本日、ここに新しい新発田市の誕生の式典を迎え、お招きいただきましたことを感謝申し上げますと同時に、心からお祝いを申し上げます次第であります。

新潟県内において、新潟市を筆頭に5番目に大きな都市として昨日新発田市が発足いたしました。10万人を超える市民、そして3万2千世帯を要する大きな所帯になりました。

そもそも合併は何のために行われなければならないのか、行われるのか、回りくどいお話をこの場で申し上げる必要はないかと存じますが、これから将来を予測するに、だんだん嵩んでいく行政のコスト、そして住んでおられる皆さんに対してのサービスの向上を目指すために、私たちは各市町村長さんを始めとし、議会の皆さん方にご理解、ご協力をいただいて、合併の推進をお願いしてまいりました。

地方自治の本来果たすべき役割、そのために自治体はどのようにしていかなければならないか、そこが合併を推進するか、あるいは独自の道を歩んでいくか、それぞれの市町村の皆さん方の判断するポイントであろうかと思えます。

これからさらにこの地域において求められるものは、商業、工業、農業、そして住んでおられる人材育成のための学力の向上、あるいは生活力の安定、そしてまた各周辺に対する指導力の増大、発揮が求められてまいります。

それには、今地方の財政力は勿論であります、その財政力を裏打ちするだけの様々な仕組みを改めていかなければなりません。国においても、三位一体の改革と申しまして、財源の委譲を図り、私どもといたしましては若干不満もありますが、義務教育費国庫負担部分の4千250億を地方にお任せすると決断をしたところでもあります。

どうか、有効な資金の活用をお考えになっていただき、今でも勿論認識しておりますが、さらに、名実ともに県北の雄として、そして地域の発展のためのさらなるモデルとして、指導力を発揮していただけるように、心から念願して止みません。

今日に至るまでの皆様方のご尽力に対しまして、せんえつではありますが、私からも深甚なる敬意と感謝を申し上げますと同時に、本日総務大臣表彰をお受けになられる方々のお祝いも添えて、この地域がますます発展されますように、今日お集まりの皆さんのご多幸を併せてご祈念を申し上げ、一言ごあいさつとさせていただきます次第であります。本当におめでとうございました。

新発田市・紫雲寺町・加治川村合併記念式典の開催にあたり、県議会を代表いたしまして一言お祝いを申し上げます。

皆様方には、日頃から県北地域の振興・発展と地域住民の福祉向上に多大なご尽力をいただき、深く敬意と感謝の意を表するものであります。

今日の地方行政は、国・地方を通じた厳しい財政状況が続く中で、少子・高齢化社会への移行、国際化・情報化の進展、生活圏の広域化など、社会情勢の変化を背景に高度化・多様化した住民ニーズへの対応と合わせて、地方分権という新しい時代にふさわしい個性豊で魅力ある地域づくりが求められるなど、大きな変革期を迎えております。

このような中、昨日、新発田市と紫雲寺町、加治川村が合併し、新生新発田市が誕生したわけではありますが、これまでもこの地域は美しい自然と豊かな文化・歴史に育まれ、地理的、経済的にも結びつきが強く、行政や地域住民の活発な交流が行われてまいりました。

このたびの合併を機にこれまで以上の融和が図られ、魅力あるまちづくりが行われ、よりグレードアップした新生新発田市となられることを心から御期待申し上げます。

新市の合併まちづくり計画にもありますように、「県北の拠点都市としての魅力あるまちづくり」「山から海までの地域の個性を生かしたまちづくり」「住民参画による活力あるまちづくり」を目指し、連携による相乗効果を発揮され、ぜひ実現していただきたいと考えております。

県議会といたしましても、この意義ある合併による新たなまちづくりを積極的に支援してまいりますとともに、今後とも、県政の発展と活力ある豊かな地域づくりを目指し、各種施策の推進に鋭意努めてまいります所存であります。

どうか、皆様方におかれましても、本日の式典を契機として、新たな市の発展と住民福祉の向上になお一層ご尽力くださるようお願い申し上げます。

終わりに、本日お集まりの皆様方のますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

